

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 9 月会議 会議録 (3 日目)

(平成 29 年 9 月 6 日 午前 10 時 55 分)

- 議長 (小林幸雄) それでは、会議を再開いたします。

通告の 2 森山木の実議員。

- 1 信濃町の医療体制について
- 2 横川町政の政策について

議席番号 9 番・森山木の実議員。

- ◆ 9 番 (森山木の実) おはようございます。議席番号 9 番・森山木の実です。

先日私、古間での防災訓練を見に行ってきました。お年寄りから子供まで、訓練ながら皆さん真剣でした。見ていて思ったのは、もしその時、家にお子さんだけだったらとか、お年寄りだけだったらどうするんだろうと思いつつちょっと考えたんですけども、こういう時、信濃町というのは、ご近所同士の助け合いというのが多分あるんだろう、地域の助け合いというのがあるんだろうなと思って、それは信濃町の良いところだなと思って帰ってきた次第です。

さて今日は「信濃町の医療体制について」、そして「横川町政の政策について」の二点につき質問いたします。

医療体制の核になる信越病院の建替と将来像についてお聞きしたいと思うんですけども、まずちょっと確認しておきたいんですが、病院の建設は「する」ということでよろしいんですね。

- 議長 (小林幸雄) 横川町長。

- 町長 (横川正知) 森山議員さんにお答えさせていただきます。確認という意味でのご質問といいますかご発言でございますが、私は公約の中でも、病院については老朽化も激しいし、そのようなことで建替を、建設を進めますというのが公約でございます。

- 議長 (小林幸雄) 森山議員。

- ◆ 9 番 (森山木の実) 今、老朽化の話も出ましたけれども、町長が病院の建替を進めよう、病院建設を進めようと思った理由というのは、その老朽化だけでしょうか。ほかに何かその建設を進める理由というのはありますか。

- 議長 (小林幸雄) 横川町長。

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 9 月会議 会議録 (3 日目)

■町長(横川正知) 今、老朽化の話もさせていただきました、ハード面の。もう一つはですね、やっぱり時代に即した医療体制をどう整えるかということが、求められている時代かなというふうに思っております。そういう時代かなというのは、つまりは現実にはですね、やっぱり人口減少もこういうふうに目に見えて減少傾向にあるわけでありまして、そしてまた高齢化等々の問題もあるわけでございます。そういった中で、将来にわたってどういうふうな医療体制が構築できるかということが、大きな課題だというふうに思っております。

●議長(小林幸雄) 森山議員。

◆9番(森山木の実) 町の方からよく聞かれるのは、「病院建設、どうなっているの」というのをよく聞かれるんですね。で、何も情報がなくて、自分が生きているうちにできないんじゃないか、なんていう意見もあります。それからやっぱり情報が出て来ないことに関して、不安があるようなんですね。中には「ゴージャスな建物を建てるなら反対するよ」なんて人もいますし、「さすがにゴージャスな建物というのはないでしょう」と答えてはいますけれども、私にも、はっきり分かっていないわけです。ですから、私たち町民の「どうなってるの」を解消するためにお聞きしているんですが、今は「病院建設の計画というのはどこまで歩を進めたのか」、もう一つ、「ゴールはいつにするつもりなのか」、そしてもう一個、「どんな姿の病院にするつもりか」など、町長のお考えをお伺いいたします。

●議長(小林幸雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 町民の皆様方がですね、病院に関わる情報について、なかなかまだ情報が得られないという心配をされていると、これについてはですね、実際問題、森山議員さんも、議員さんの立場としてですね、この本会議なり予算決算を通じてそのことを申し上げさせていただいてきているわけでございますので、一つは是非議員さんのお立場でもですね、町は今こういう状況で進めているということをおつなぎをいただければ大変ありがたいなというふうに思いますし、私も行政の立場とすればですね、いろいろな町政懇談会等々の中で、そのような状況についてはお知らせをしてくれているわけでございます。

ご質問の具体的なところでございますが、どこまで今現時点で進んだのかと、こういうことでございますが、前回確か6月会議のときですか、議員さんから、永原議員さんですかね、からもご質問あったかと思うのですが、その時点でも申し上げさせていただきました。これはやはり、大変、大型事業でございますので、慎重に、後世に禍根を残さない、そんな思いで今、慎重に進めなければいけないということでございます。

一つは議員もご承知のようにですね、常々申し上げておりますが、やっぱり大変な資金が掛かると、そういうことでございますので、そういった面では、この3年間で基金を積み立てをさせていただいて、28年度末の基金総額が、昨日でしたか、決算でも申

し上げさせていただきましたが、この3年間で3億6千万、28年度末で基金増設をしたと。それから29年度ではですね、1億円をちょっと超える数字になりますので、4億7千万くらいにはなるかなというふうに思っております。

そういった意味では、資金的な、片方は準備をしつつですね、もう一つは具体的にどういうふうな動きでやるかと、こんなようなことを事務的にですね、プロジェクトを町内で立ち上げさせていただいたわけでございます。これは7月21日に具体的な内容検討を示させていただいて、副町長をトップにして二十数名になりますか…15名、委員がとりあえず職員関係で15名ぐらいですが、関係の部署等々含めてですね、プロジェクトチームを立ち上げて、検討させていただいた、始めさせていただいたということでございます。

そこでゴールはいつなのかと、こういうことですが、ゴールはまさにこの財政状況もしっかりと踏まえながら進めているということでございますから、ゴールありきで、なかなか今の段階でですね、何年度に建築しますというような状況にはまだないということでございます。

どんな姿の病院を目指すのかと、こういうことですが、これは先ほどもちょっと触れましたけれども、時代に合った病院ということになるだろうと思う、要はこの地域に住んでいて医療が受けられる、そのことが大前提になるわけですが、そういった意味では、規模の問題だとかですね、診療科の問題、体制の問題等々が総合的に影響してくるわけでございます。そしてもう一つは、作るだけが仕事ではありませんから、その後の中で、近い将来まで本当に健全な経営ができるかということもしっかりとした裏を持たなければいけないということが、私に課せられた課題かなというふうに思っております。またもう一つはですね、議会からもご提言をいただいております「地域包括ケアシステム」、これらとの絡み、まあ当然のことなんです、これ、介護保険、それからそういった医療とのバランス、もっと言えば福祉まで含めて、どういうケアシステムが構築できるかということも、一つの大きな課題かなというふうに思っております。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9番 (森山木の実) 課題は、よくわかりました。で、プロジェクトチームの話、私も覚えておまして、このプロジェクトチームというのも、白紙で何か投げかけられても困ると思うんですけども、プロジェクトチームは何のプロジェクトチーム、何をやるうとしているのか、具体的に教えてください。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 具体的には、病院の規模だとかですね、それから建設、財政も含めて建設の時期はどうか、あるいは微妙な問題なんです、場所の問題はどうなのかとか、先ほど言いました建設工事、もし建設工事ということになりますと、工事の手法、これ

もどんな方法が採れるか、というようなことを総体的に協議をいただくというようなことで、概要とすればそのようなことを申し上げさせていただいたわけでございます。一番はやっぱり先ほども言いましたけれども、健全な経営が持続できる医療体制ということも、大きな一つとしてお願いをしているわけでございますし、それから建設費が具体的にどのくらいになるかというようなこともですね、現実的に一つの方向として検討していただきたい。先ほど、バラバラになりますけれども、建設場所の問題だとか、建設の予定年度、この辺についても財政との絡みの中で、どの程度で照準を合わせられるか、こんなことを具体的に指示といいますか、お願いをして、今プロジェクトの検討に入っていたということでございます。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） それにしても、どんな病院を作るのかが、はっきり、町長の将来図ですね、夢でもいいですけども、自分は信濃町のためにこういう医療体制にしたい、その核になる病院をこういう形にしたいんだ、というのがわからない限り、プロジェクトチームがいくら頑張っても、予算も多分、建設費だってどれくらいになるか、わからないでしょうし、規模もどれくらいにしたらいいか、わからないでしょうし、先ほど町長がおっしゃいましたが、ゴールまでわからないと、何年先になるかまだちょっとわかっていないということでしたから、何かプロジェクトチームと言って任されても、大変困るのではないかと思うんですね。

ここでいつも私がお聞きしたいなと思っているのは、町長はどんな医療体制にしたいのか、どんな病院像を頭の中で描いておられるのか、ベッド数もそうですし、規模もそうですし、それから病院の場所もそうですよね。それから地域の病院間の連携をどうするんだ、診療科目はどうするんだ、例えば公共交通もですよね、ここに車で来られない方もいらっしゃるし、そういう全体的な医療体制の像、それからその中の病院像、それが、町長がどういうイメージを持っておられるのか、そこが私がいつも一番聞きたいところなんですけれども、なかなかこう、そこのお答えが返ってこないと、プロジェクトチームだって困っちゃう、私だったら、「え、どうしたいから、何をしたらいいの」と思うんですね。そこ、私はプロジェクトチームのトップの副町長に聞いてみたいんですが、どういうことを、プロジェクトを話し合っているんでしょうか。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） プロジェクトチームとしての位置づけでありますけれども、今、町長がプロジェクトを立ち上げるにあたっての要請事項の中で、私どもは動いております。具体的には、7月21日まで一回しか行っておりませんが、その中では、議員ご承知のとおり、病院あり方検討委員会の答申を受けております。その内容の検証、それから議会から提案を受けておりますし、また今、県の医療構想の関係等につきまして、それぞれ第一回目の会議の中では検証させていただきました。それらを基に、これ

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 9 月会議 会議録 (3 日目)

から具体的な内容に移っていくわけですがけれども、先ほど長が言われましたように、今現在の医療体制を考えるにあたって、どのような規模がいいか、あるいは今後予定している包括ケアシステムの導入の中で、それらの連携を含めた場合、医療・福祉・介護、全部含めた中での施設整備を検討するようなことで、今、取り組んでおるところであります。

● 議長（小林幸雄） 森山議員。

◆ 9 番（森山木の実） 何かそれですと、病院のあり方検討委員会と同じような内容じゃないかと思うんですけれども、例えば、あり方検討委員会の答申を丸ごとやるぞと、参考にするのではなくて、もう、あり方検討委員会の答申が出たから、このとおりにやりましょう、という姿勢ですか。

● 議長（小林幸雄） 横川町長。

■ 町長（横川正知） どういうふうにお答えしていいんですかね、私は病院は、先ほどの大きな筋として、将来にわたってこの町の町民の皆さんが、医療を適切に受けられるということの一つ思うんですね、目的とするんです。合わせて高齢化でありますから、今の医療体制の中で、いわゆる何と申しますか、救急医療あるいは慢性疾患ではなくて、その一時医療のところへまた戻ってくると申しますか、そういった高齢化に対する対応、これらが非常に大事な要素になってくるんじゃないかなというふうに思うんですね。ですからそういったことも含めて、今検討していただくと。

それから今 26 年、27 年の 3 月ですか、病院の検討委員会の答申を、私になってから頂戴しました。これも長年、長年という長い間かけて貴重な検討をしていただいているわけでありまして。このことを思ってですね、じゃあその答申のとおり、すぐ建設できるかという、具体的には、そうはいかないわけでありまして。もっと、きめ細かな部分として、検討を深めていかないとまずいわけありますので、それらも検討の材料の一つとして、より現実的な対応としてですね、プロジェクトとして、まず事務的な検討をしていただくと、こういうことでございます。

● 議長（小林幸雄） 森山議員。

◆ 9 番（森山木の実） どうも私の頭の中で、病院像が描けないんですけれどもね。例えばそのプロジェクトチームというのは、さっき 15 人というふうにおっしゃいましたが、どういう方たちが委員として入っているのか、その中に専門家は何人入っているのか、聞かせてください。

● 議長（小林幸雄） 和田副町長。

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 9 月会議 会議録 (3 日目)

■副町長 (和田勇人) 委員構成でありますけれども、私を委員長としまして、副委員長には診療部門ということで医師をお願いしております。それから委員構成として、看護部門、医療技術部門、薬剤部門、これらの職員を当てております。また外部になりますけれども、社会福祉協議会の職員、それから、おらが会の職員も入れております。また、内部的には総務課、住民福祉課それぞれの職員を入れる中で、アドバイザーとして、委員外ですけれども、長野保健福祉事務所長をお願いし、事務局は病院の職員を当てる中で構成させていただいております。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) では、あり方検討委員会の時は、一応町民は入りましたけれども、このプロジェクトチームというのは、町民の意見はどう拾い上げていくんですか。私たち特別委員会で、450 人の町民の方に、私たちが走り回ってですね、質問項目を決めて、対面でアンケートを取ったことがあります。それを基にして、この間、政策提言を上げたんですけれども、それぐらいのことをしないと町民の意見というのは拾えないと思うんですけれども、このプロジェクトチームというのは、町民の声はどうやって拾っていくんでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 議員さん方もですね、病院の関係についてアンケートを取られた、対面でというふうなことで、お会いしてそれぞれのご意見を頂戴したということは、私も承知しております。是非またその辺のまとめた内容についてもですね、議会として私どもにですね、中身もお示しいただければ大変ありがたいというふうに思います。で、もう一つは、今やっている段階は本当に、この前も申し上げたかもしれないですが、青写真の前の段階なんです。これを、どう青写真をまず作ろうかということでございますから、そんな中で具体的に、今携わっているメンバーとしてしっかりとした基本の部分といいますか、をまとめましょうと、こういうことで今お願いしているわけでございます。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) ということは、まだマスタープランには、まだ行っていないということですね。はい、うなずいておられますので、そうでしょうね。6 月会議のときの同僚議員の質問の中で、住民合意が必要でしょうと。この病院を作っていくにあたって住民合意が、私も必要だと思います。住民合意というのは、住民全員がイエスと言う、そういうものではありませんね。ありえないし。そうではなくて、住民合意を目指す中の、合意形成までのプロセスが、私、大事なんだと思っているんですよ。学校建設の問題で喧々囂々 (けんけんごうごう) のときに、当時の同僚議員が提案してくれた、横浜

市の「住民合意形成の手法」というのがあるんですね。それは、横浜市のまちづくりのルールとして、読んでみて、とにかくそのプロセスが透明で公平で、情報が正しく提供されることが大事と。それさえあれば、全員が賛成でなくても合意自体は形成されると、私もそれはよくわかりました。ということで、やはり町民の意見をしっかりと、私たちから「どんな意見でした」と議会も提供してもいいですけども、プロジェクトチームの人たちだって、本当に対面でもいいし、集まりのところへ行って、ノートを持って聞いて歩いたらどうでしょうねと思うんですよ。

何が一番町民のためになるのかということを最優先にして、目に見える形で計画を進めていっていただきたいと思います。町長もそうですし議会もそうなんですが、私たちは町民に向かって将来図を語る責務があるんじゃないかと。こう何か、まだできてないとか、お金が貯まりました、と言うのもいいんですけども、こういう医療体制にしたいんだ、こういう病院を作りたいんだ、そのためにこういうことをしていきたいんだと、町長も、議会もですね、熱く語る責務があると。「責務」とまで言いますが、あると、私は思っております。情報がなくて、「自分が生きているうちには、もう病院はできないな」なんて諦め口調の人も出てきてしまう、そんな状況ですから、作るなら作る、これはまあ決まった、作るそうですけれども、10年後になりそうなら10年後になると、正確な情報をお願いいたします。何かご意見といたしますか、答弁はありますか。

●議長(小林幸雄) 横川町長。

■町長(横川正知) まさに正確にですね、情報をお伝えして、正確に町民の皆さん方にもご判断をいただく、そういうことを一つは目的として、今プロジェクトでまさにマスタープランの基といたしますか、前段階として協議をさせていただいているわけでございます。これは森山議員さんに是非ご理解いただきたいのですが、やっぱり作るというときにですね、後々、これ森山議員さんも財政問題も非常にいつもご心配されて、ご質問もいただいているのですが、そのことも、昨日もそうですが、例えば経常収支比率の問題等々もご質問を頂戴したりするわけですが、これは直接関係ないとして、しかしやっぱり大事なのは、やっぱり財政ですね。懐具合が悪いのにどんどん進めるというわけには、これはいかない。私はやっぱりそういう中ではですね、一つの見通しの中で、立場的に決断するときは建設年度も決断をさせていただく、その方向性について決断をさせていただく、こういう立場にあらうかなというふうに思っております。

●議長(小林幸雄) 森山議員。

◆9番(森山木の実) 財政がどうでもいいなんて思っていませんけどね。

例えば正確な情報を今ちょうど町民の人に言われたら、4億6千万貯まりましたと、それしか私、言えないんですよ。じゃあほかに「どこに作るの」、「いや、わかりません」、「どれぐらいの大きさなの」、「いや、わかんないのよね」。

「ちょっと今、考えているところ。今このプロジェクトチームで考えているところ。

町長はこれぐらいの大きさにしたいらしいんだけど、プロジェクトチームでどうなるかな、それくらいは答えないと思うんですけど、どうも曖昧なものですから、はっきりしているのは4億6千万だけなんです。これも多分、防災無線で流れると思うんですけど、あ、3億6千万ですか、今度の決算で4億6千万ですよ、通ればね。大丈夫だと思いますが、通れば4億6千万と、そういうことになると思いますが、是非これは町長、やっぱりね、町民に向かって、私のご理解するしないの問題よりも先に、町民に向かって、自分はこういう夢を持っていると、信濃町の地域医療に関してこういう夢があるんだということを熱く語っていただきたいと思います。

以上、ちょっと最初の質問が長引いてしまいましたが、次に行きたいと思います。

次に、横川町政の政策について、お聞きします。横川町政になって3年近く経ちます。この3年間で町長が「これこそ、自分が町長になったからできたこと」又は「これこそ、自分が町長になったからこそできること」と胸を張って言いたい政策、又は施策は何ですか。

●議長(小林幸雄) 横川町長。

■町長(横川正知) はい、私自身はですね、そんなに力んで胸を張って言うような立場ではないと思っております。最低でも、選挙という立場でそれぞれお伝えし、公約を掲げさせていただいたわけがございますから、そのことを中心に進めてきていると。ただ、言葉は悪いですが、立場立場で、この町政といいますか政治の動きというのは生ものありますから、いろいろな違った状況も生まれるということもあるわけがございます。それぞれそういった分野にはですね、適切に対応しつつ進めてきたということだというふうに思います。

要は公約に基づいて言えばですね、やっぱりこの信濃町の、平成26年の11月28日に私はこの立場になりましたけれども、いいか悪いか、ちょうど国も6月頃からですね、地方創生というようなことが大きな話題として今に及んでいるわけがございます。私は国が発表する前にですね、何とかこの信濃町の人口というのは、まちづくりの一番基本だという意味で、公約の一つに早々と訴えをさせていたということで、後、地方創生問題が出て来て、ある面では良かったなという分野と、それからこれ全国的に、言葉は悪いですが金太郎飴になっちゃうのかなという、ちょっとそういった心配もあつたりしたのですが、しかし全力でですね、この3年間、じき3年になりますけれども、こういった問題について積極的に対応してきたということは、私自身は言えるかなと。

これは一人ではできませんので、この間、議員の皆様方、そして執行機関である補助者たる職員の皆さん方にもですね、理解をいただいて、この間進めてきたなというふうに思います。個々の問題についてはですね、それぞれ対応も手がけさせていただいたり、まだ手を着けていないということもありますけれども、できる分野については一生懸命、今、取組をさせていただいているということでございます。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) 何か随分謙虚なお答えだったと思います。私、言えますよ、横川さんで良かったなと思うものがありますよ。例えば、赤川の最終的な解決のときにしてくれた、これはまあ町長としてはね、どの町長でも同じだったかなとは思いますが、でもこれは将来にわたって、信濃町の将来にわたって大変な効果が出ることだと思っていますし、それからイベントばかりということもなくなってきたなと思いますし、それから野尻地区の、野尻湖の東大寮跡地とか J A の跡地を、ちゃんと町のものにしたということは、私これは評価しているんですよ。町長、何か自分じゃ言いにくいんですかね、政策というより施策ですけどもね。地味で目立たなくても、後々になって、これ良かったな、これは横川町政からだったな、と思えるような政策があると思います。

今ちょっと人口対策のことも出ましたので、いろいろ飛ばしてそちらに行っちゃいますけれども、選挙公報の中にも、人口減少対策を最重要課題として取り組みますという、こういう政策、お約束がありました。私も人口の減少は最重要課題の一つというのは、これ賛成なんです。人口ビジョンとか総合戦略も読みましたけれども、一生懸命やってかなりうまくいったとしても、高齢化も進む中、今後爆発的に人口が増えるかと言ったら、これちょっとわかりません。この人口の増え方などに関して、町長の見通しというのはどうでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 人口ビジョンも含めてですね、信濃町の将来人口をどう捉えるか、極めて難しい問題なんですね。ただ現実問題を踏まえて考えるときに、森山議員ご案内のように、出生と、高齢化の中で亡くなる数、マイナス百いくつに毎年なるわけでございます。で、いわゆるその自然動態という専門的な言葉で言えばですね、それからもう一つは転入転出が、自然動態に比較して、比較というか言葉としては社会動態という言葉があるんですが、この自然動態を何とか縮める、そのマイナス面を縮めていくことも、一つは大事なことだろうと。したがって人口ビジョンの中でも、出生の、合計特殊出生率でしたか、二点幾つというような数字も掲げさせていただいているんですね。

もう一つは、転入転出でむしろ転入を多くしよう、定住移住を増やそう、こういうことで今、地方創生も含めてやっているわけでありまして。そういった中では、昨日もちょっと総務課長から具体的な数値がありましたけれども、今年度まだまだ短期間で見て云々というわけにはいかないというふうに私自身は思っているんですが、これは今、今年の1月から今年の7月で、今のその社会動態、転入転出の関係で言えばプラス4というような数字を、私今把握しているんですね。ですから、いろいろな地方創生という部分も、数はそんなに莫大に大きい数はなかなか難しいんですが、一つひとつの積み上げがですね、そういうことにもつながってきているかなというふうに思っています。

そういう中では、将来、人口というのは、例えば人口ビジョンで七千二百数十名でしたか、あ、五百いくつか、という数字を掲げておりますが、大きな目標としてそれをし

っかりと持ちながらですね、何とかそこに、何とかいきますか到達できるというか、そういったことが、非常に大事な取組になってくるんじゃないかなというふうに思っております。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) だから私もこれから先、人口を爆発的に、1 万を越えるぐらい増やしましょうなんて言っている話ではないんです。目標を立てなければ行動もできないだろうし、7 千を目指して、2040 年にですか、7 千を目指していけたらいいと思うんですが、ただ人口規模というのが小さくなっていくと、どんな問題が起きてくるかという、私、さっきの古間の防災訓練の時にも思ったんですけども、人口規模が小さくなっていくと、地域、集落の弱体化というのが始まっていくんじゃないかと。

今まだ皆さん元気ですよ。先日呼んでいただいて参加した、移住者交流会でお会いした地域の皆さんは、若い方真っ青のエネルギーでしたし、仁ノ倉で毎年収穫祭に呼んでいただくんですけども、そのときも必ず地域の力というのはいすごいなと感心しています。

でもこれから先、例えば 7 千人にいったとしても、人口規模は今よりずっと小さくなるわけですよ。そうすると個々の住民は元気でも、80 でも 90 でもお元気でも、まとも集落を維持していくには、人数的、物理的に無理なことが増えてくるんじゃないかと思うんです。道の管理だとか用水の土手の草刈りが難しくなったり、農地や森林ですね、今でも荒れていますけれど、もっと荒れてくるんじゃないかと思えますし、また空き家も増えますし、防災面でも問題が出てくるかもしれない。それから老人会がなくなったりしているところもありますが、地域の団体の解散もあるかもしれないし、だんだん暗くなってきましたが、後継者の不足もあるかもしれない。地域の役員のなり手不足という集落機能の低下も起きてくるおそれがあります。今まだ皆さん元気ですけどね。ただ私はこの集落機能の低下、それから弱体化は人口政策にとっては大きな問題だと思っています。

また、山が荒れたりすると、また産業廃棄物の処分場を作りたいという業者さんが来るんじゃないかなと、私はちょっと警戒してなきやいけないなと思っているんですけども、私は産廃処分場計画の反対運動から議員になりましたので、すぐそんなことを考えてしまうんですが。心配はないだろうとは思いますが、最初に信濃町の地域、集落の力がすごいなと思ったのは、この産廃処分場反対運動を通してなんです。私はまだ知らなかった頃なんですけど、B 社の問題の時などは、寒い中、大勢の方たちがトラックの前で座り込みをして、計画を阻止したと聞いています。その後は赤川の例の処分場計画なんですけど、両方とも地域の力、地域と生活を壊されてたまるかと、そういう住民の力で阻止できたと思っています。「表立っては反対とは言えないけど、頑張ってね、頼むよ」と激励してくださる方もたくさんおられて、私は地域の結び付きが弱い所から来たので、それを聞いて、この、小さい町ですよ、小さい町の地域や生活を守りたいという皆さんの気持ちがすごく伝わってきた、だからこそ大事にしたいと思っているんです。

最近若い方が元気で、よそからもどんどん来てくださって「さあ信濃町を盛り上げよう」と、Uターンの方もいらっしゃいますし、私などには思いもつかないやり方で楽しんでいるのは、大変素敵なことだと思っています。その反面、地域や集落に根付いて、生活を守ってきた方々が、「もう病人が多くて用水の土手の草刈りもできないんだよ」というのを聞くと、やりきれなくなってきました。こういう嘆きの声がある現状については、町長はどうお考えでしょうか。

●議長(小林幸雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 私はですね、一つ前段として申し上げますのは、今、森山議員さんが言われましたように、その集落内での絆といいますか、強いなと感じたということでございます。私はそういった意味でもむしろ、一昔前、という言い方は大変失礼なんです、何ていいますか人口構成も変わったりしてきて、特に、仮にこの信濃町の中心地は柏原だと、仮にですよ、そうした場合に、どちらかというところ周囲の集落が衰退してきているというような現実があるわけですね。

したがって、そういう中で私は、地域コミュニティというのはまさにこの信濃町の基本だと。信濃町の活力というの、まさにその今までの集落集落がそれぞれ足を踏ん張って地域の中で活躍してきている、そのことが信濃町を作り上げていると、こういうことで、私、27年度でしたか、地域の活力を一層新たな方向も含めてですね、そんなものの方向性で使ってほしい、そんなことで地域活動の支援の交付金というようなことも立ち上げさせて、金額はわずかですけども、そういった思いで、立ち上げをさせていただいたわけでありまして、それから地域コミュニティが大事だと、その拠点をなくしてはいけないということで、集会所の改修といいますか、限度額 50 万円でしたか、というようなこともちょっと取組をさせていただいて、実際にそれぞれの集落で活用していただいているという状況であります。

私、今、一番、ゆくゆくの中で大変心配、森山議員さんもいろいろな心配事を、今つらつらとおっしゃられたんですが、頭が一杯になりました、私も。むしろその心配事がいっぱいあって、そのことがなかなかできない、今の形態では何年か先、できなくなるなといったときに、どういう形態で今後維持できるかということも、それぞれ、私ども行政だけではなくてですね、地域地域の中でも考えていくというようなことが、これから何年か先でも必要になってくるのかなというふうには思っております。

それは、それぞれの皆さん方ですね、今私も、ちょっと失礼ですが私の集落は今一番下段は 8 軒であります。また祭の時期になってきているんですが、昔からの大きな竿をどうやって立てるかという心配も、実は現実としてあるんです。そんな、「旗を立てるのをやめようじゃねえか」というような動きにまでならざるを得ないような状況が出つつある、これがやっぱり、その集落の生活だけでなく、産業にも大きく影響してくるというようなことでございます。

例えば農業の問題についてはですね、それぞれまたいろいろな制度の中で組織立ったもので対応していくというようなことも、今、多くの組織ができたりしてきております

平成 29 年第 414 回信濃町議会定例会 9 月会議 会議録 (3 日目)

が、基本的な問題としての問題視というのは、私は森山さんと同じ認識を持っているんです。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) 珍しく同じ認識です。私もです。このままこの人口減少問題を放置すると、遠くない将来、集落の維持、存続、怪しくなってくるなと思っているんですが、今単に人口が増えればいいという話ではなく、集落運営を担う役員のなり手不足など、後継者不足、それからさっき言った、ずらずらと並べてしまった否定的なことなどに対応するためには、今おっしゃったように、今ほど、この新しい地域づくりに向けた新しい政策を打ち出していくことが大事なのではないかと思います。これは町もそうですし、議会もそうだと思います。

まず、先ほどおっしゃった、集落に対する補助ですね。集落自身がどんな努力をしたらいいいのか、それともう一つ、集落が協働の力で集落を維持するために、このために行政がどんな支援をしたらいのかを、もっとはっきりさせていくこと。政策として、大きな政策の柱として、ドンと立てていくことが、集落機能の低下に歯止めをかけるんじゃないかと思うんですよ。この転換する時代に、町長や職員さん、議会に求められるのは政策力ではないかと思います。この地方分権の時代になって、自治体が自分たちでやらなければならないことも増えたと思うんですね。そのときに、自分たちの町の政策を自分たちの頭で考えて、自分たちで実行するような横断的な政策チームを役場内に作ってもいいのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。提案です。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 役場内ということですが、いつも何と申しますか、制度上も含めてですね、企画提案もあるわけでありまして。なかなか今正直なところ、職員も非常に、それぞれの立場立場で、極めて多忙なんですね。なかなかそこまでやれるかという、現実的にはちょっと難しいところもあるんですが、しかし今後の中でですね、自治体職員として今後どういうふうな対応ができるか、それは若い職員にとっても、それぞれ将来のまちづくりを担っていただく、今もそうですけれども、特に中心になって担っていただくという立場でもありますので、そんなことはまた、もし可能だとすればですね、含めて検討もしてみたいなというふうに思います。

●議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆9 番 (森山木の実) 是非検討をお願いいたします。イベントではなく政策を考えるチームができれば、横断的にできたらいいなと思います。今フェイスブックでだって、なかなか楽しい信濃町が出てきていますから、若い人、それから若い人だけでなく、横断的に何か考えていっていただけたらいいなと思います。それから先ほどおっしゃって

たコミュニティづくりですね。これに必要な政策は何と何と何があるのか。信濃町の文化的、それから伝統的な財産がありますね、それらを生かしてどんなまちづくりを進めるのか、また集落と行政はどう協働できるのかなど、その縦割りではなかなか考えられないことを、横断的なチームなら、また前例にとらわれない政策を作ることができると思います。

今後の 10 年を展望したときに、どんな理念を掲げてまちづくりを進めるのか、集落維持のほかにも、伝統産業や農業などの産業がありますし、子育て支援や子供への支援など、時代が転換している今だからこそ、思い切った政策が必要なのではないのでしょうか。経験主義とか前例主義とか、また、ただお財布の紐を締めるだけの施策であったり、周りの自治体の動向を見ながら施策を打ったりというような守りの姿勢では、信濃町がと言っているわけではありません一般的な話ですが、守りの姿勢では、この時代に新しく起きている集落機能の低下や、団体の解散、後継者不足、役員のなり手不足などという問題に対応できないのではないかと思います。小学校単位ぐらいの規模で、地域と行政が協働することで、人口が爆発的に増えないと見込まれるこの時代に、集落機能を維持し、町のサービスも維持するための攻めの政策を、是非縦割りではないチームで作っていきましようと思案したいと思うのですが、いかがですか。

●議長(小林幸雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 先ほども言いましたが、そのことを否定するわけではありません。ただ、今、現実問題としてですね、長期振興計画なりですね、具体的な計画に基づいて着実に進めているわけでありまして。長期振興計画でも、後期の 5 年計画の中、動いておりますけれども、まさにそういった将来のまちづくりということを考えての基本計画でありますので、それに基づいて実施計画も着々と進めさせていただいている、その上ですね、今、森山議員が言われるそういったものも、十分今後の中ですね、可能かどうかも含めてですね、頭の中に入れておきたいというふうに思います。

●議長(小林幸雄) 森山議員。

◆9 番(森山木の実) よろしくお願ひします。頭の中に入れてどうなったか、また後日伺いたいと思ひますので、忘れないようにお願ひします。

では、質問を終わります。

●議長(小林幸雄) 以上で、森山木の実議員の一般質問を終わります。

この際申し上げます。昼食のため、午後 1 時まで休憩といたします。

(午前 11 時 44 分)